

## 私の学生時代

### 野球部 敢闘す

中 浜 鶴 男

私は大正十年に予科に入学し、昭和二年大  
学経済科を卒業したので、その間六年間を同  
志社で送った者であります。

当時予科に入学して来る者は同志社中学を  
卒業して入って来る者と併せて二五〇名位だ  
ったと思っています。その二五〇名が大学を  
卒業する時は半分位になってしまっている。  
どうして半分になってしまいかというと、当  
時の学校の教育方針がきびしいので、落第は  
させる、退学はさせる、と言って真面目に学  
校へ出席している者は進級はさせていたよう  
だったが、当時の諸教授、講師がクリスチャ  
ンだったので相まきびしい学校であった。そ  
んな関係で予科一年が二五〇名、三年迄で学

生は七五〇名、大学へそのまま進学したとし  
ても三年だから合計して千五百名だ。ところが  
が前述のような次第で脱落して行く者もあつ  
て、私が大学を出た時は百二十名だったと記  
憶している位だから、当時の同志社大学は予  
科・大学を併せて全部で千二、三百名位の学  
生だったと思う。だから割合いと家族的であ  
つた。あの方は誰だ、あの方は某（オニカレ）と言うよう  
にお互に顔見知りの間柄であつた。尤も神学  
部の学生は神学館に立籠つておられたので知  
り合いは少かつたが、今でも当時の先輩や後  
輩に逢つても名前は忘れても見覚のある顔を  
想い出す位、同志社大学一家であつた。  
その六年間を野球にあけてくれて送つてしま  
つたと言っても過言でない。今でも野球をや  
つていたことを感謝している。会社の経営も  
野球と同じだと思つている。

当時の野球部には今のように関西六大学野  
球連盟もなかつた。私の予科三年の時に漸く  
関西学院と関西大学の三校で関西大学野球連  
盟を作つたのだから淋しいものだった。しか  
し心の中では東京の大学と今のように覇を競  
ひたかつたが歯がたなかつた。関西出の中  
学生は皆東京の大学へ行く有様であつた。当

時の早稲田、慶応は予科、大学、専門部を併  
せて学生数は、既に七、八千名か一万に近い  
人数でなかつたかと思う。その中から選らば  
れた野球部の選手しかも中学時代からの有名  
な選手が入つている。同志社大学は全学生数  
がさきほど説明したように千五百名で、その  
中からえらんだ選手だから、試合をしても勝  
てる筈がなかつた。それでも東京の大学と対  
抗ゲームをしてそんなにみじめな負け方はし  
なかつたと記憶している。

当時の野球部員は十二、三名だった（高商  
部が出来て合併した時でも十七、八名だつた  
と記憶する）。それ程少い人数だったので心  
を一つにして助け合い、励し合つてやつたも  
のだ。これが会社の経営に役に立つと申し上げ  
たチームワークだ。

学友会の費用も少い、と言って練習はしな  
ければならない。相手は関西学院、関西大学  
第三高等学校、京都大学。クラブとしてはダ  
イヤモンド・クラブ、スター・クラブ、それ  
に大毎チーム位が相手であるので、どうしても  
も他流試合をしなければならぬ。それで私  
は各地へ遠征をして技を磨き、しかも学生で  
ある以上地方を見学することにより知識を吸

収することも出来ると考えて、北陸、九州、北海道は勿論のこと朝鮮、満洲、台湾へまで足を延して大いに活躍した思いがある。

今でもほんとうによかった、いい時代であったと思つている。当時一緒に苦勞した高田勝生君は去年逝去してしまつたが生きておればこれを読んで喜んでくれただろう。あるいは当時野球部に席を置いて遠征に行を共にし

た人が読んでくれれば喜んでくれるだろうと思つている。

ほんとうに私の学生時代はいい時代だったと言ふ一言につきる。

今でも当時の今出川のグラウンドで練習を終つてかえる時、チャペルから流れて来る讚美歌の合唱が耳に残つている。これが私が同志社において受けた宗教的雰囲気であり、学生

# 野球部満鮮に轉戦す

## 十五勝四敗に引分の好成績

### 一行十六名到る處で觀迎さる

野球部メンバー

中濱 鶴 男

## 戦績

|               |     |       |
|---------------|-----|-------|
| 對 全 釜 山 戰     | 九 勝 | 五 (勝) |
| 對 龜 峰 俱 樂 部 戰 | 四 勝 | 三 (負) |
| 對 全 大 邱 戰     | 八 勝 | 一 (勝) |
| 對 殖 銀 俱 樂 部 戰 | 三 勝 | 二 (勝) |
| 對 京 城 鐵 道 戰   | 八 勝 | 四 (負) |
| 對 京 中 俱 樂 部 戰 | 五 勝 | 三 (負) |

寝打ちをやつて形勢逆轉し、勝ちましたものの、私はなんだが点数に勝つて、ゲームに負けた氣がする。それに反し龜峰俱樂部とは義理があつてエキストラゲームをしたが、点数には負けたとは云へ、ゲームに勝つたと思ふ。この邊の人人は蘭結が狂んで、粘る力に富んでゐる。

同志社新聞より (大正15年9月27日付)

生活であつて今でも有難いと思つている。

平和なそして發展途上にあつた同志社六年間の学生生活は今の学生諸君には味わぬ生活であつた。

知育・徳育・体育をモットーとしていた同志社の教育方針の中で野球部に籍をおいたので、徳育と体育とそして宗教的雰囲気をも身につけて有難く思つている。今一つ知育の方をやつておれば先輩として大いに語ることも出来るが、それが欠けているので、在学の諸君は知育も徳育も体育も一つも欠けることなく身につけて社

会に出いていただきたいと申上げたい。  
(昭二・大経卒・日本ステニス専務)